

〔科目名〕 ファイナンス理論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 山本 俊 Yamamoto Shun		〔オフィス・アワー〕 原則、研究室在室時は受付。 時間:授業開始時にお伝えします。 場所:授業開始時にお伝えします。			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 ファイナンス理論では、保有資産の分散化という視点から、ポートフォリオ理論を学修し、それをもとに証券市場における証券の価格決定の理論や、証券等の取引から派生する金融商品の価格決定の仕組みを学修します。本科目はファイナンス理論であるため、理論の学修を中心としつつも、実際にどのように応用されているのかという、実践的な視点も取り入れます。 授業では、「何故なのか」という視点を大切にしつつ、学修内容の理解を深めるため、金融系諸資格の試験問題を練習問題として取り入れ、授業内容に準拠した復習用の確認問題を配布します。授業資料の復習や確認問題を解くことで、考え方や知識を定着させてください。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 他の科目との関連付け ファイナンス理論の第 4 回から第 11 回までは、統計学の知識や考え方をを用いて、ポートフォリオ理論を学修します。本科目の第 12 回から 15 回までに学修する金融派生商品の取引では、ミクロ経済学(裁定など)の考え方を応用します。 2. なぜ学ぶ必要があるのか・学んだことが何に結び付くか 証券市場における全ての投資家が最適行動をした場合、市場において証券価格がどのように形成されるのかという理解は、金融機関はもちろん企業や個人の投資家にとっても、合理的な投資意思決定をする上で不可欠です。こうした理解を通じて、企業人や個人として、資産運用の視野を広げることにつながります。							
〔科目の到達目標〕 ・具体的なポートフォリオを想定し、目標収益率を確保するための構成比などを説明できる。 ・証券市場における証券価格の決定の仕組みを説明でき、標準的な指標を基にポートフォリオを評価できる。 ・金融派生商品の仕組みを理解し、それらが果たす役割を説明できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○			○	○			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 できるだけ具体的な説明を心がけ、数学や統計学が必要な部分については丁寧な説明を加える。							
〔教科書〕 金融経済学Ⅱでは教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 なお、授業資料の作成では、主に、下記の参考書を参照しています。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 参考書1:ツヴィ・ボディ、ロバート・C・マートン『現代ファイナンス論』(原著第2版)ピアソン桐原、2011年 参考書2:内田浩史『金融[新版]』有斐閣、2024年 参考書3:榊原茂樹、青山護、浅野幸弘『証券投資論』日本経済新聞社、1998年							

参考書4:小林孝雄、芹田敏夫『新・証券投資論Ⅰ理論篇』日本経済新聞社、2009年

参考書5:伊藤敬介、萩島誠治、諏訪部貴嗣『新・証券投資論Ⅱ実務篇』日本経済新聞社、2009年

【前提科目】 マクロ経済学、ミクロ経済学、金融経済学Ⅰ

ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)

以下の方法によって成績評価します。

- ①授業内クイズ:30%(第8回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。)
- ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用)

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】

- ①この授業においては、「何故なのか」という視点に立ち、理論的、実証的根拠のある解説を強く意識します。
- ②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。
- ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。
- ④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。
- ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。

【実務経歴】 特に、なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、証券市場を形成する金融機関 内 容:証券売買を仲介する金融機関の主な業務と、それらが形成する証券市場を学修します。 参考書2の10章
第2回	テーマ(何を学ぶか):株式の売買注文における原則と方式 内 容:株式の売買注文について、価格と時間の視点を切り口に俯瞰し、2つの売買方式について学修します。 参考書2の9章
第3回	テーマ(何を学ぶか):株式の評価指標と配当政策 内 容:割引キャッシュフロー法を応用した株式の評価方法や配当政策が株価に与える影響を学修します。 参考書1の9章
第4回	テーマ(何を学ぶか):ポートフォリオ選択とリスクの分散化(1) 内 容:証券を期待収益率、リスクの2つのパラメータで捉えつつ、複数の証券を同時に保有するメリットを学修します。参考書1の12章
第5回	テーマ(何を学ぶか):ポートフォリオ選択とリスクの分散化(2) 内 容:ポートフォリオ選択の過程、期待収益率とリスクのトレードオフ、リスクの効率的な分散化を学修します。 参考書1の12章
第6回	テーマ(何を学ぶか):ポートフォリオ選択とリスクの分散化(3) 内 容:危険資産のみからなるポートフォリオに安全資産を加えることの意義と、分離定理の意味を学修します。 参考書1の12章
第7回	テーマ(何を学ぶか):ポートフォリオ選択とリスクの分散化(4) 内 容:目標収益率を確保できるポートフォリオ設計を、具体的に計算しながら学修します。 参考書1の12章

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):Capital Asset Pricing Model(CAPM)</p> <p>内 容:これまでに学修したポートフォリオ理論に従って、全ての投資家が合理的な最適行動をした場合、市場において証券価格はどのように形成されるのでしょうか。こうした問題意識に対する実践的な理論が CAPM であり、特に、第 6 回目の授業内容を踏まえ CAPM の基本的な考え方を学修します。CAPM は 1960 年代にウィリアム・シャープなど複数の経済学者によって提唱された始めた理論であり、シャープは 1990 年にノーベル経済学賞を受賞しています。また、CAPM の修正の過程も併せて学修します。</p> <p>第 8 回目の授業では、第 7 回目までの内容についてクイズを実施する予定です。次回以降に解説もします。</p> <p>参考書1の 13章、参考書3の4章</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):CAPM の投資管理への応用(1)</p> <p>内 容:第 8 回の学修を踏まえ、個別株式の期待収益率と証券市場線上にある均衡期待収益率の差に注目し、個別株式の価格水準の適切性がどのように評価されるのかを考えてみましょう。</p> <p>参考書1の 13章、参考書3の4章</p>
第 10 回	<p>テーマ(何を学ぶか):CAPM の投資管理への応用(2)</p> <p>内 容:第 8 回、第 9 回の学修を踏まえ、:CAPM を応用して、ポートフォリオのパフォーマンスを測る代表的な指標を学修します。</p> <p>参考書1の 13章、参考書3の4章</p>
第 11 回	<p>テーマ(何を学ぶか):CAPM の投資管理への応用(3)</p> <p>内 容:縦軸に特定の個別株式の月次収益率、横軸に株式市場の月次収益率をとり、最小二乗法によって回帰直線(証券特性線)を引いたとき、その傾きと残差の意味を考えてみましょう。</p> <p>参考書3の3章</p>
第 12 回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(1) 先物取引</p> <p>内 容:これまで、株式を中心とした原資産そのものの取引について学修しました。第 12 回以降は、原資産の取引から派生して取引される金融商品の取引について学修します。今回は、予め定められた価格で金融商品を売買することを約束する先物取引について学修します。</p> <p>参考書1の 14章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章</p>
第 13 回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(2) オプション取引の仕組み</p> <p>内 容:金融派生商品のうち、権利を売買するオプション取引を学修します。ここでの権利は大きく「買う権利(コール)」と「売る権利(プット)」からなり、投資家はコールやプットを売ったり、買ったりするため、投資家の取引の動機を正しく理解しておくことが重要になります。</p> <p>参考書1の 15章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章</p>
第 14 回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(3) オプション取引におけるコールの価格決定理論</p> <p>内 容:第 13 回の学修を踏まえ、コールを売買する際の価格の決定理論を学修します。ここでは、裁定取引の考え方を応用します。</p> <p>参考書1の 15章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章</p>
第 15 回	<p>テーマ(何を学ぶか):金融派生商品の取引(4) オプション取引におけるプットの価格決定理論</p> <p>内 容:第 13 回の学修を踏まえ、プットを売買する際の価格の決定理論を学修します。さらに、プットの売買価格とコールの売買価格の間に成立する関係についても考えてみましょう。</p> <p>参考書1の 15章、参考書3の7章、参考書4の 7 章、参考書5の 4 章</p>
試 験	<p>期末試験(主として択一式で、記述問題もある)を実施します。</p>